

やがて私共が人格を稱するものに子供自身成長して来るのである。

小さい子供にまつて、遊戯は一つの言語である。話し言葉でないから、あそびで表現して来たのである。それは表現の一つであつて、五歳位迄は大方自然的な遊びの方がお話や歌よりも先きに來てゐる。それ故新入園児がはじめ幼稚園の行事に大した興味を起さなくとも落膽する必要はないのである。——そんな子供は自分だけでわかる方法

新入園児を迎へる心組

春だ、而も非常時の春だ、樂園の裡にも春が來たのだ。木々の芽は夫々の持ち前に於て勢よくふいて居る。暖い風が芽を出させ、春の雨が蕾を脹らませる、然し其の春風も慈雨よりも根本的なものは落葉の一片に秋の寂寥を感じせしめられた其の時から、今日の準備が行はれて居るこゝであ

で自然に自分を表現してゐるのであるから。——自由な遊戯でそれはなされてゐるのである。はじめの幾月かは子供各自に肉體的にも情緒にも智的にも、また精神的にも伸びる事の出来る機會を與へられるやうな簡單にしてしかも伸縮性のあるプログラムを作つて、良習慣の形成につきめなければならぬと思ふ。實に教師にまつても教師自らの實力をためす時で、自分が子供達にかゝる發展をさせんじしてゐるや否や自ら省る時であると思ふ。

大阪市立久寶幼稚園 藤 本 ツギ

る。私共の新入児を迎へる心構へも一日々々の経験から來るべき年をあくもかうも構へられつゝ今日を迎へるに至つたのだ。

新しい子供等は迎へられた。輕やかな足ざりで園のお仲間に加つた。此の子の父も母も乃至は祖父母もいたいな

エプロン姿に限りなき愛の眼ざしを以て見送りつゝ登園せ

しめられるのである。希望に充ち／＼た子達ミ家族を迎へる私等の準備はこれで充分で有らうか、新しい年、新しい子、そして私等も経験さいふ温床の上に新しく芽を出さう。新しい子達を迎へる事によつて私等の望みは高く大きく而も日々がより輝く。

願るに昭和十二年度は我國未曾有の年で有つた。本年も亦國難はつゞき國民總動員さいふ國を擧げての事になつて來た。

抑々保育のお仕事を、從來さても春の長閑さで行つて來た理由では毛頭ないが、日支の事變は私達にも大きな響きで有つた。ベストを盡して來たさいふ今迄の方針や方法丈では満足が出来なくなつた。減私報國、教育報國の心に燃え立つて昭和十三年度を迎へる次第である。

研究會、發表會等ミ云つて、實質に觸れざる研究の爲めの研究であつたり、發表のための發表であつたりした迫らざる態度は今後許されなくなつた。此の子のために、此の町のために是非さもかうした保育をミ日々を精進し度いミ

思ふ。

就ては先づ

一、健康に育てるべく方策を立て度い

善良な性情も幼兒を健康に育て上げる事によつて自ら養はれる。

日光に當てやう

黙々ミ歩かせやう

何でも美味しく食べさせやう

充分な睡眠をもらせやう

熟慮した事は一々實行に移さう

根氣よくつゞけやう

家庭ミしつかり握手しやう

醫者ミ手を繋がう

園を修了した後々までもいゝ事は續けさせやう

二、もつと保育を荒削りに

手技にしても、遊戯唱歌を扱つても、小學校の高學年を感心させる様なお仕事はすつかり止めにして、もつミ基本的な生活をさせやうミ思ふ。例を遊戯にみるならば、從來

の遊戯をしし云へばピアノが鳴り出し一定の身ぶり手ぶりが練磨されるに云つた一つの型を破り、次の様な遊びを多分に加へ度いと思ふ。

- 1、徒歩競争
 - 2、地面に平行線を畫き線より線へ飛び越えさす
 - 3、土俵をかつがせる
 - 4、輪なげ、輪抜け遊び
 - 5、横臥させて體を轉ばす
 - 6、バケツに水等入れて運ばせる
 - 7、平均臺様ものを渡らせる
 - 8、疊の上に座せる保母を後から押させる
 - 9、毬を腹にして全身を廻轉させる
- 等々誰にも出来る簡単な遊びで、繰り返す事によつて

ン／＼上達する基本的なものを考へ出し度い。或日名簿の整理を行つて居た時、カルタ遊びに勝れた人が誰よりも早く正確に處理出来た事實があつた。種々な遊びが其の時の面白さ、來るべき次代への土臺となる事を希望する保育項目中、談話も大きな役割を持つて居て、幼児の心の方面を養ひ生活を指導するよすがとなるのだが、基本的なものを數少く、幼児の飽かぬ程度に繰り返し話して、幼児の血となり肉となりしめ度いと思ふ。國亂れて英雄現はれ國難來つて國民精神が發揚されるのは世の常で、生々しい時代の體験を持つた自分等こそ次代に活動すべき國民を作り上げるべき資格を有するものなる事を新入兒を迎へて自信し度い。